

目指す学校像	児童の豊かな心を培い、夢や希望を育む学校 教職員がもち味を生かし、授業や教育活動を創り出していく学校 家庭や地域社会と共に歩み、協働し合う開かれた学校
--------	--

重点目標	1 学びを自律化し、情報端末を活用した個別最適な学習、探究的な学習を実現する 2 安心・安全な学校に向け特別支援・相談体制を充実させ、豊かな人間関係を作ることができる学校を実現する 3 コミュニティ・スクールとして成長し、保護者・地域と連携した学校教育を実現する 4 一人ひとりの教職員が力を発揮し、ライフステージにあった成長ができるよう、働き甲斐のある職場を作る
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均程度である。 ○学力・学習の項目「進んで学習に取り組んでいる」(児童回答)の肯定的な回答の割合は9割程度である。 ○学級規律が守られ児童がおおむね集中して学習に取り組んでいる。本校独自の「家庭学習のすすめ」が定着し、家庭と連携して積極的に学習に取り組める児童が増えている。 (課題) ○学年によって数人程度、集中力が維持できない児童が見られるため、個別指導やICTの活用等、個に応じた指導法をさらに進めることが必要と考える。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、基礎基本の徹底 ・個別最適な学習や探究的な学習の充実	①国語、算数について、スタディサプリやドリルパークなどの学習への取組状況をスタディ・ログとして活用して学習相談を行い、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を分析するとともに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受け、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の読解力向上を図る。	①日頃の授業の様子やまとめのテストの結果から、各教科の基礎・基本を習得できたか。 ②学校評価の児童の調査結果(進んで学習している)が90%以上であったか。 ③国や市の学力・学習状況調査の児童の調査結果が国や市の平均以上であったか。	①夏季休業前に学習用端末の持ち帰りを開始したことにより、スタディサプリやドリルパークなどの活用が図られた。各学級の授業の様子や学力調査等の結果から、児童は各教科の基礎・基本を概ね習得できた。 ②学校評価「進んで学習している」について、児童の肯定的回答は89%で目標に届かなかった。 ③全国学力・学習状況調査の問題に全教職員が取り組む研修会を行い、今求められている学力についての共通理解を図った。児童の調査結果は国や市の平均を上回った。	B	・スクールダッシュボード等を活用し、児童の学習への取組状況をスタディ・ログとして活用して、個に応じた指導ができるようにする。 ・全国学力・学習状況調査の問題の分析や結果の検証を進め、探究的な学習を実現する。	・夏季休業中のタブレットの使用による個別学習の推進など、ICTを活用した授業の推進が図られていることは評価できる。今後は、児童の学びの自律化に向けて、教師による個別の働きかけや工夫が必要と考えられる。 ・学校内部のことが分からないと、学校評価の回答に迷うことがある。保護者や地域の方々为学校に足を運んだ際や、たより等に、学校が思いを伝える機会をより増やすとよいのではないだろうか。加えて、広く保護者への理解を求める新たな取組があると、保護者の回答率や評価がもっと上がるのではないだろうか。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、92%である。 ○「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで児童の肯定的な回答が90%を超えている。 (課題) ○コロナ禍が児童に与えた影響を回復することが大切である。心と生活のアンケートの結果に対しての適切な対応が求められる。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが重要である。	・安心・安全な学校に向けた、児童一人ひとりへの細やかな特別支援・相談体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた学校行事の充実	①教育相談体制を整え、いじめの防止や早期発見を組織的に取り組む。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報をライブ・ログとして、児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校評価の児童の調査結果(困ったときに相談できる先生がいる)が昨年度(92%)以上であったか。 ②学校自己評価における教育相談体制に係る保護者アンケートにおいても、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①学校評価「先生は話を聞いてくれたり見守ってくれたりする」の肯定的回答は86%(昨年度比-6%)となり、目標値に届かなかった。 ②上記アンケートの保護者の肯定的な回答の割合は90%で目標を達成した。	B	・教育相談部会・生徒指導部会の一層の充実を図り、不登校対応、いじめの防止等に取り組む。 ・働き方改革により、学校職員が児童と向き合う時間を増やし、児童の気持ちに一層寄り添えるようにする。	・いじめ防止と早期対応のため、小さな出来事を放置せず、積極的に対応している。また、SSWや警察などとも連携して組織的に対応していることも評価できる。 ・竜巻や不審者対応といった、新たな試みを行っていることも評価でき、今後も継続していくことが求められる。 ・本校を含め、さいたま市はいじめに関して隠さずにしっかりと認知していく姿勢が素晴らしい。本校でも引き続き、しっかりと認知し、解決に向けての手立てを講じてもらいたい。
3	(現状) ○学校運営協議会において、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくという共通理解が図られている。 (課題) ○「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合は、50%程度である。今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・家庭や地域と協働体制を作り、児童の自律につながる継続的な取組に向けたプラン策定	①本校 Web ページや学校だより等による学校の様子発信や学校公開の実施等により、目指す児童の姿を広く家庭、地域と共有できるようにする。 ②地域行事を積極的に児童に周知したり、授業等に地域人材を活用したりして、学校と地域との連携を強化する。	①全国学力・学習状況調査の生活に関する質問において、「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②同じく「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の肯定的な回答が80%以上となったか。	①Web ページを随時更新することができた。「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合は52%で目標を達成できなかった。 ②地域の行事等に10回以上参加できた。「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の肯定的な回答が89%で目標を達成できた。	B	・学校運営協議会やスクール・サポート・ネットワーク等と連携を図り、地域行事を積極的に児童に周知したり、授業等ににより多くの地域人材を活用したりすることにより、郷土愛を醸成していく。	・地域行事への参加率については、改善が求められる。各自治会や中学校と連携して地域行事の情報を一括し、保護者や児童に伝えることで、地域行事への参加率が上がると考えられる。 ・近隣の大学と連携し、学生ボランティアの活用や、大学の公開講座への参加の呼びかけ等を推進していくことも考えられる。 ・コロナ禍の影響により、本年度ようやく再開できた行事も多い。元の完全な形での実施が見込まれる来年度は、より数値も上がっていくと思われる。 ・大人に「自治会」を理解してもらう工夫も必要である。
4	(現状) ○各教科等において、ICT(学習用タブレット、プロジェクター等)を活用した授業実践を推進している。ICT専門部会で取り組んだ実践等について、教員に周知し、活用の幅を広げている。 ○学校評価において、教職員自身の働き方に係る項目についての肯定的な回答の割合は、80%以上である。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○自分が担当しない教科について教材研究することや、よい授業のイメージを共有することが課題である。	・「さいたま市 GIGA スクール構想」を推進するために、エバンジェリスト等と研修会や打合せを月に一回以上開催する。 ・他校からよりよい教科担任制の情報を収集する。 ・全国及び市の学習状況調査の問題を分析することにより、目指すべき児童の姿や探究学習のあり方についての共通理解を図り、教材研究等の効率化を実現する。	①「さいたま市 GIGA スクール構想」を推進するために、エバンジェリスト等と研修会や打合せを月に一回以上開催する。 ②他校からよりよい教科担任制の情報を収集する。 ③全国及び市の学習状況調査の問題を分析することにより、目指すべき児童の姿や探究学習のあり方についての共通理解を図り、教材研究等の効率化を実現する。	①全ての教員が、同じレベルでICTを活用した授業ができるようになったか。 ②高学年の教科担任制の授業により、授業の質の向上が図られたか。 ③学校評価で、教職員から自分の仕事ぶりに係る自己評価の肯定的回答が、90%以上であったか。 ④授業に関するアンケートにおいて、授業を肯定的に捉えた回答の平均値が85%以上であったか。	①全ての教員が、ICTを活用した授業についての研修を重ね、概ね同じレベルで授業ができるようになった。 ②高学年教科担任制により、ある程度の授業の質の向上が図られたが、教科が限定的であった。 ③学校評価「仕事が充実し、働き甲斐があると感じている」における教職員の肯定的回答は、76%(昨年度同様の調査比-3.4%)で目標を達成できなかった。 ④学校評価「学校の勉強は楽しく分かりやすい」における児童の肯定的回答の平均値は87%(前年度比-2%)で、目標を達成できなかった。	B	・ICTをただ活用した授業ではなく、エバンジェリストを中心として、授業でのより効果的な活用について研究を重ね、個別最適な学びにつなげていく。 ・高学年教科担任制を行う教科について、さらに拡大して実施していく。 ・教職員の働き方改革をさらに推進し、楽しく分かりやすい質の高い授業の実施と、児童に寄り添う時間の確保ができるようにする。	・授業において、教師が電子黒板やタブレットを効果的に活用し、子どもの興味関心を引き出していることは評価できる。今後は、ICTを活用しながら児童間のコミュニケーションを活発にするなど、より高度な活用方法が望まれる。 ・高学年教科担任制の教科拡大についてはよい取り組みと考える。中学校と同じ形で授業が行われることにより、中学校入学時のギャップが少なくなるのではないだろうか。

学校運営協議会による評価	実施日令和6年2月16日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	